

環境サロン CLUB-FOREST
冬企画「ゆく紙、くる紙」

環境サークル RNECS が中心となって企画した 1 月 19 日（土）の CLUB-FOREST。新聞や雑誌や感熱紙を材料に手作りした紙をもとに、きき紙やクイズで身近な紙の古紙リサイクルの現状や森林との関わりなどを話していきました。紙パルプやリサイクル原料のサンプルにも触れることができ、参加者はこんなものから紙ができていくのかとびっくり。身近にあふれている紙なのに、知らないことが多くあると実感したようでした。最後にはその手作りの紙に今年の抱負や感想を墨で記し、しおりを作成しました。



準備不足な点も見られましたが、学生が中心となって和気あいあいと紙について語り合うことができました。

難しく見られがちな“環境”をテーマに、お菓子やお茶を囲んで好きなことを話していく環境サロン、気軽にご参加くださいませ。



「もったいない、もったいない」

『だめだっちゃ温暖化』が全国的に有名になるなら、『いだますい』も有名になってほしい。「グローバルな問題にローカルから行動！」ということで、仙台のことばで環境問題を語ってみましょう。

『いだますい』は「惜しい、もったいない」ということ。用例『そいず、まだ履げっちゃ、いだますいごだあ』／『あっぺとっぺ』は「とんちんかな」ということ。用例『6%下げらんねえがらって、あっぺとっぺばあり語ってんだおん。』／『いすい』は「なんとなく居心地が悪い」こと。用例『サミットさいったら、いすいっちなや。なじよすんだべ。』／『おしよすい』は「はずかしい」ということ。『おどげでねえ』は「大変な」ということ。『ちょうび』は「このごろ」ということ。用例『そんなぬゴミ投げで、おしよすぐねえのが！ちょうび、おどげでねえぐ銭かがだど。』…『投げる』は「棄てる」ことです。／『ごんど』はごみ、『ごんどわだ』は魚のはらわたのこと。用例『なげだってひしゃますだけだから、ごんどわだまで焼いて喰（け）え』…『ひしゃます』は「手に負えなくて困る」ことです。／『もじゃ

ぐる』は「ぐしゃぐしゃにする」こと。『までに』は「丁寧に」ということ。用例『包み紙はすぐもじゃぐんねで、までに畳んでとつがよい。』／『むつける』はすねること。用例『わらすがむつけどって、いらねものは買ってやんねでけさいん。』／『ねんねこ』は寝た猫・・・ではなく、こどもを背負うときに着るもの。『ほどる』はあたかかくなること。用例『ねんねこ着てっから、ほどってえ。おらあストーブなんていらね。』

さて、あなたはいくつおわかりになったでしょうか。絵本「もったいないばあさん」（真珠まりこ 作・絵、講談社 2004 年）を読んでみると、自分の顔が絵のおばあさんのようになっている。もったいないことをしないようにと、おばあさんが孫に教えてる。自分が読んでるんだけど、読み手自身に言い聞かされているようでもあります。自分のこどもに自分の口から出ることばで教えてあげなさいと。「もったいないばあさん」が「もったいないじいさん」になり、ほんとうは、「もったいないお母さん」、「もったいないお父さん」になってほしいと。



「もったいない」は『いだますい』だから「もったいないばあさん」は仙台のことばではどうなるのでしょうか。